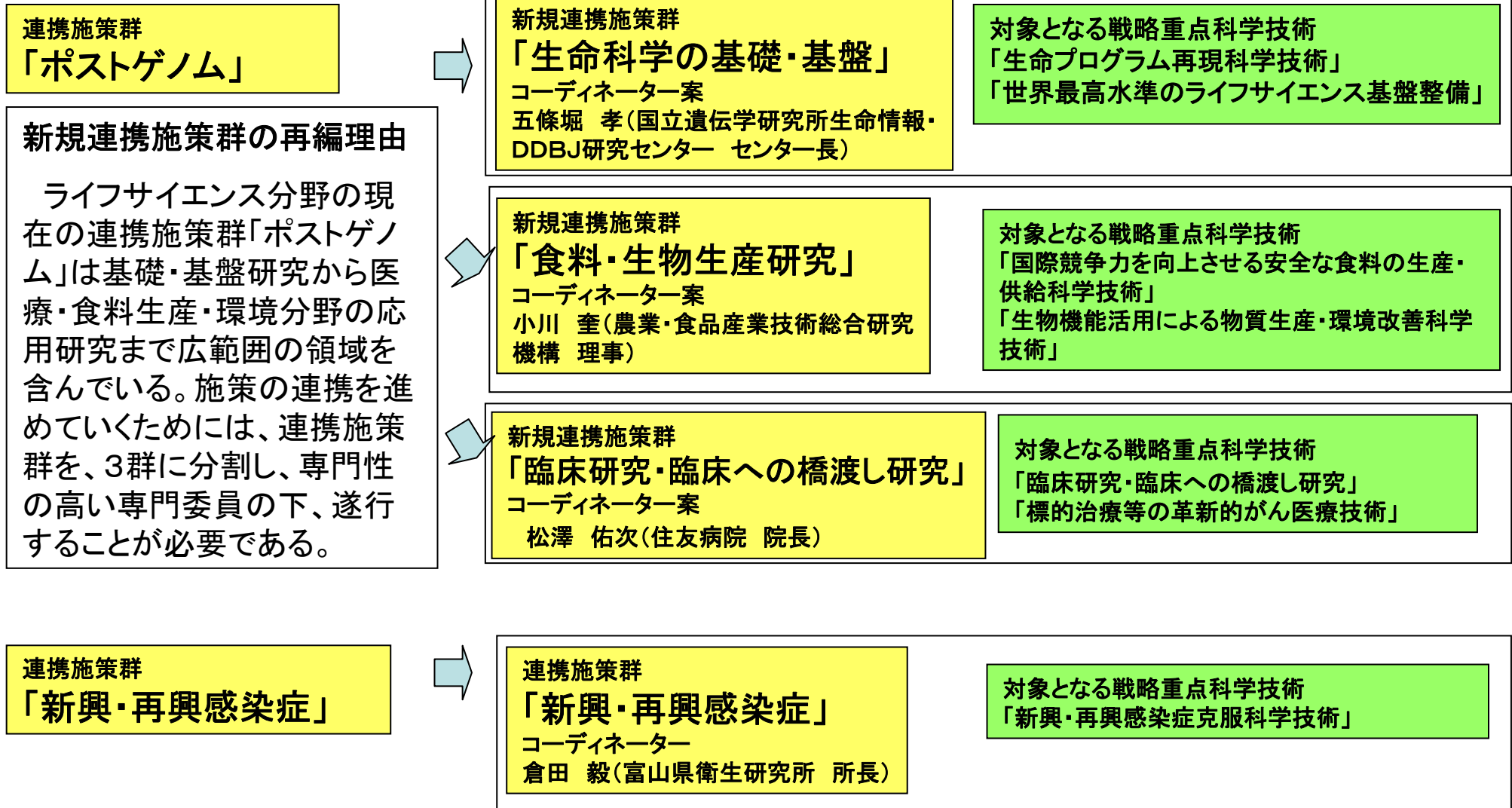


ライフサイエンス分野 連携施策群の再編(案)

資料1-1



平成19年度新規連携施策群(案): 生命科学の基礎・基盤

ライフサイエンス分野

(対象となる戦略重点科学技術) 世界最高水準のライフサイエンス基盤整備

生命プログラム再現科学技術

コーディネータ(案): 五條堀 孝(国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ研究センター)

目 標

世界最高水準のライフサイエンスデータベースの構築を中心とした、ライフサイエンス研究における国際的優位性の確保を目標とする。

概 要

「生命科学の基礎・基盤」は「ポストゲノム」連携施策群の基礎・基盤を引き継ぐ連携施策群である。

選定理由

生命情報の統合化データベースや生物遺伝資源はライフサイエンス研究を支える基盤である。国際優位性の確保のため、基盤の整備は必須である。

対象とする各省主要施策

- ・バイオインフォマティクス推進センター(文)
- ・統合データベースPJ(文)
- ・ゲノムネットワークPJ (文)
- ・ナショナルバイオリソースPJ(文)
- ・創薬基盤総合研究(厚)
- ・ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発PJ(経)
- ・糖鎖活用技術開発PJ(経)
- ・機能性 RNA PJ(経)
- ・農林水産生物ゲノム情報統合データベースPJ(厚)

等

(対象となる戦略重点科学技術) 国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術
生物機能活用による物質生産・環境改善科学技術

コーディネータ(案): 小川 奎(独)農業・食品産業技術総合研究機構

目 標

生物がもつ機能を活用し環境と調和の取れた安全な食料の生産・供給を確保するため基盤技術の構築を目指す。

概 要

食料生産力を高めるため、植物等の生命現象の生理・生化学的解明の研究を踏まえ、生物が持つ機能を活用して低コストで食料を生産する研究開発を強化する。

選定理由

世界の食料需給が中長期的にはひっ迫する可能性もあると見込まれる中で、食料を生産する研究開発を強化する必要がある。

対象とする各省主要施策

- ・食品健康影響評価技術研究(食)
- ・植物科学研究事業(文)
- ・食の安心・安全確保推進研究(厚)
- ・アグリ・ゲノム研究の総合的な推進(農)
- ・先端技術を活用した農林水産研究高度化事業(農)
- ・アグリバイオ実用化・産業化研究(農)
- ・安全で信頼性、機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発(農)
- ・遺伝子組換え等先端技術安全性確保対策(農)
- ・アグリ・ゲノム研究の総合的な推進(新需要の創造に向けた研究推進)(農)
- ・土壌微生物相の解明による土壌生物性の解析技術の開発(農)
- ・生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発(農)
- ・植物機能を活用した高度ものづくり基盤技術開発(経)
- ・微生物機能を活用した環境調和型製造基盤技術開発(経)

等

平成19年度新規連携施策群(案):臨床研究・臨床への橋渡し研究

ライフサイエンス分野

(対象となる戦略重点科学技術)臨床研究・臨床への橋渡し研究

標的治療等の革新的がん医療技術

コーディネータ(案): 松澤佑次(住友病院)

目 標

がん、生活習慣病等の疾患に対応した国民への画期的治療薬・医療機器・医療技術の迅速な提供を目指す。

概 要

がん、生活習慣病等の国民を悩ます病を克服するための研究開発、支援体制整備、人材養成等の成果を国民への還元する臨床研究・臨床への橋渡し研究の強化する。

選定理由

基礎研究の成果を創薬や医療技術などに実用化するためには、各省連携した臨床研究と臨床研究への橋渡し研究の強化が必要であるため。

対象とする各省主要施策

- ・分子イメージング研究プログラム(文)
- ・橋渡し研究支援推進プログラム(文)
- ・革新的ながん治療法等の開発に向けた研究の推進(文)
- ・重粒子線がん治療研究(文)
- ・治験推進研究(厚)
- ・臨床試験推進研究(厚)
- ・循環器疾患等生活習慣病対策総合研究(厚)
- ・臨床研究基盤整備推進研究(厚)
- ・第3次対がん総合戦略研究(厚)
- ・ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発(経)
- ・基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発(経)
- ・インテリジェント手術機器研究開発プロジェクト(経)

等

連携施策群：新興・再興感染症

ライフサイエンス分野

(対象となる戦略重点科学技術) 新興・再興感染症克服科学技術

コーディネータ: 倉田 毅(富山県衛生研究所)

目 標

新興・再興感染症に対する脅威から国民の安心・安全の確保に貢献する。

概 要

目標達成のため、①ワクチン等の開発や、迅速診断系など 疾患横断的な基盤技術の開発の推進、②野生動物や昆虫における病原菌のサーベイランスを恒常的に行う研究体制の強化、③発生源等、海外と国内研究拠点との連携強化、④多目的な共同実験型の高度安全実験施設の整備についての検討、⑤感染症研究の人材育成、等を行う。

対象とする各省主要施策

- ・新興・再興感染症研究拠点形成プログラム(文)
- ・エイズ・肝炎・新興再興感染症研究(厚)
- ・牛海綿状脳症(BSE)及び人獣共通感染症の制圧のための技術開発(農)
- ・食の安心・安全確保推進研究(厚)
- ・食品健康影響評価技術研究(食)

等